

佐久市立佐久城山小学校 開催要項

佐久城山小学校 全県研究大会スローガン

「子どもが選ぶ 学校が変わる」

- 1 期日 令和6年11月29日(金)
- 2 会場 佐久市立佐久城山小学校(佐久市平賀5325-1)
- 3 共同研究者 信州大学 学術研究院・教育学系 教授 伏木久始 先生

12:45 13:25 13:45 13:50 14:30 14:45 14:55 15:10 16:40 16:45

受付	私の時間 参観	移 動	授業参観	移 動	開会 行事	研究 発表	トークセッション	閉会 行事
----	------------	--------	------	--------	----------	----------	----------	----------

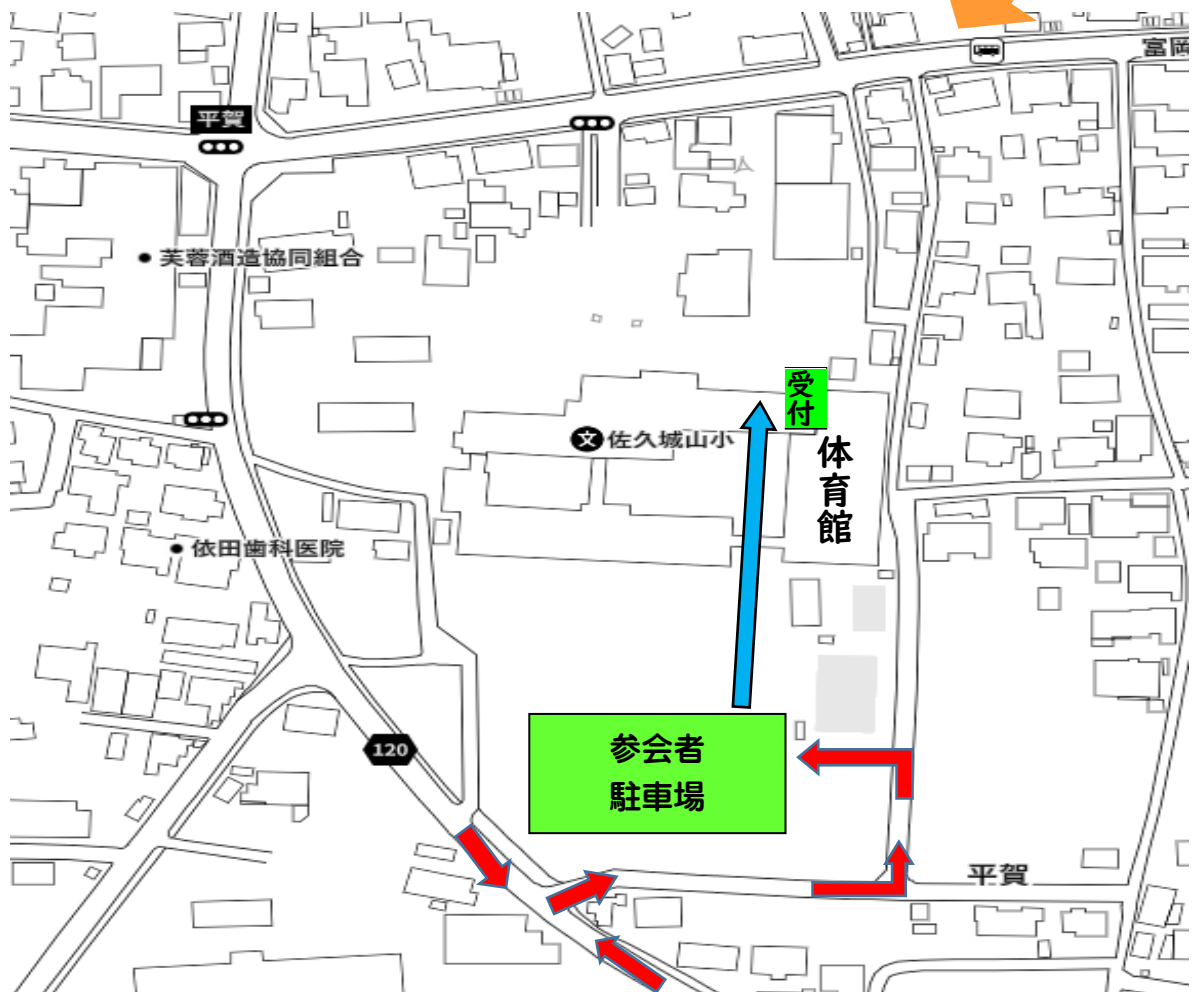
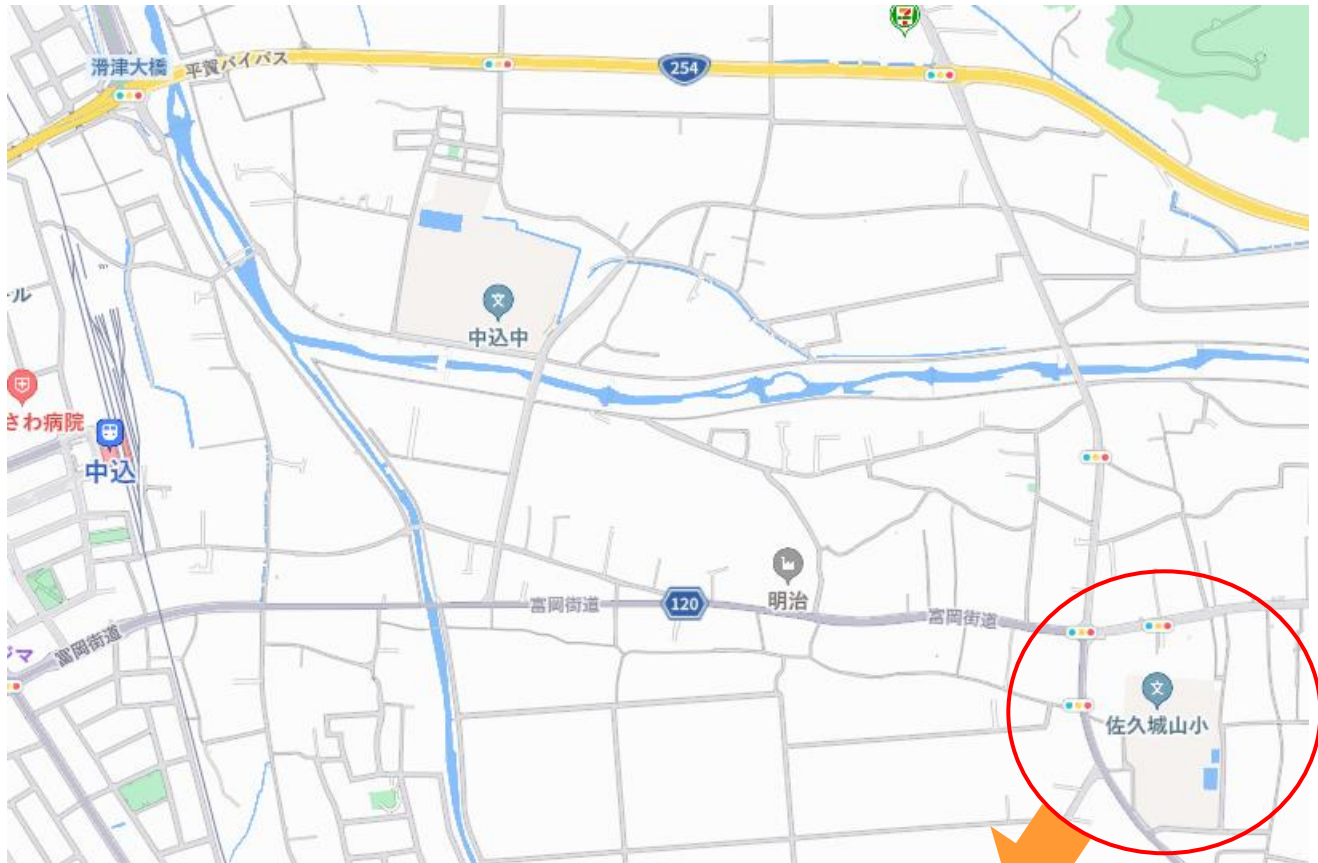
4 日程

- (1) 受付(体育館入口) 12:45~13:15
- (2) 「私の時間」参観 13:25~13:45
- (3) 授業参観 13:50~14:30
- (4) 開会行事(体育館) 14:45~14:55
 - ① 主催者挨拶 信濃教育会会長 大日方 貞一
 - ② 来賓挨拶 佐久市教育長 吉岡 道明 様
 - ③ 諸連絡
- (5) 学校づくり概要 14:55~15:10
- (6) トークセッション(ファシリテーター:伏木先生)
 - ① トークセッション1 15:10~15:25
○研究発表をもとに、伏木先生・校長・本校研究主任等が対談する
 - ② グループでの意見交換 15:25~15:40
 - ③ トークセッション2 15:45~16:40
○各グループで出された質問や意見等をもとに、互いの考えを深める
- (7) 閉会行事(体育館) 16:40~16:45
 - ① 会場校御礼 佐久城山小学校長 金山 賢
 - ② 諸連絡

5 その他

- ・上履きをご準備ください。
- ・駐車場は校庭をご利用ください。
- ・その他ご不明な点がございましたら、学校までご連絡ください。

佐久市立 佐久城山小学校 周辺地図



令和の学校づくりをめざして

佐久市立佐久城山小学校

1 はじめに

本校では、令和6年度より1単位時間を40分とし午前中に5時間目までを行う教育課程を実施している。そして、創出された学校裁量の時間20分を活用して教科等の時間あるいは一人ひとりの教科の基礎基本の定着のための時間（指導の個別化）や、児童の興味・関心等に応じた活動や課題に取り組む時間（私の時間での個人追求・学習の個性化）に充てている。また、児童の下校時刻を毎日30分早めることで教員の教材準備や研修のための時間を確保し、子どもへ質の高い学びの場を提供できるようにしている。

40分授業午前5時間制は、東京都目黒区や横浜市などで文科省の研究開発学校を中心に実践されており全国へ広がりを見せているが、「特例校でなければ・・・」と導入をあきらめている学校（校長）が多いのが実情であろう。東信地区佐久地域では、軽井沢風越学園、大日向小中学校、さやか星小学校、サミットアカデミーエレメンタリースクール佐久など、学校独自の教育課程を前面に打ち出した私立の学校が次々と開校している。本校のチャレンジは、公立学校でも子どもにとって魅力ある教育課程を創造できることを実証するために、これまでの学校の枠組みの中に、「子どもが選ぶ」要素を盛り込み、子どもが意思決定をする教育活動を展開することで子どもの可能性を見つめ直そうというものである。特に、学校裁量枠の中で実践している『私の時間』は、学びの主体を100%子どもに委ねている。この時間には、自分で選ぶという自己決定力、限られた時間の中で自分がどのように学ぶかを考える自己調整力、自己学習力を培う要素が確認できている。何より、多様な子どもたちの活動を見守る中で「その子らしさ」を私たち教員（大人）が理解することに繋がっている。夢中で活動する子どもの姿と裏腹に、私たちは点数では計れない子どもの資質・能力を読み取る力量を試されているとも感じている。私たちの試みは、きっと子どもたち一人ひとりの興味・関心・キャリア形成に応じた課題に取り組む機会を提供することに繋がり、自分にあった学び方を見出して学ぶ経験の積み重ねが「自立した学び手」を育成し自己実現（自分らしく生きていく）へと向かう原動力になると信じている。

「私たちは、隣を見ても誰もやっていなことをやろうとしている。だから正解も分からないし教えてもらえない。でも、私たちはすごいことをやろうとしているという気持ちを自信や力に変えてやってみよう。」

昨年度、1週間の試行期間を終えていよいよ新年度から新教育課程を実施すると決めた職員会議の中で、退職を控えたベテラン教諭が発した言葉である。特例校の形や枠だけを真似てもうまくいかないことはわかっている。大切なことは、実践を通して私たちが学習者である子どものことをより深く理解し続けることと、そのことを生かした教育活動を展開していくことである。まだ戸惑いも多く道半ばではあるが、本校の実践の一端をご参観いただき、ご示唆いただけるとありがたい。

共同研究者である信州大学教職大学院 伏木 久始 教授には、子どもに学びの主体を委ねることへの私たちの葛藤と子どもたちのありのままの姿をお伝えし、たくさんのご助言をいただけてきた。その都度、私たちは立ち止まり子どもたちのために大切にしたいことは何かを問いながら考え、今日まで学校づくりを進めることができた。この場をお借りして心より感謝申し上げる。

2 変わる学校

(1) 年間指導計画の変化

令和6年4月より新教育課程での教育活動を実施している。本年度は新教育課程実施に合わせて通知票2期制も実施しており、運動会や音楽会、参観日や保護者懇談会の開催時期の変更等、多くの行事の改革も同時に行っている。4月当初は教員の入れ替えも考慮して全校5時間授業とし、学校裁量の時間は学級活動の時間に充て、児童も教員もじっくりと新教育課程に慣れながら学級の立ち上げる時間を設けた。並行して午後のゆとりを生かして『私の時間』のあり方や教員の支援のあり方について研修を行い、準備を進めてきた。

運動会や音楽会などの行事の内容も例年通りではなく、子どもが主体となった企画を盛り込むように変わってきている。今後行われる5年生の児童会選挙の仕方も、子どもたちの主体性を尊重するために例年通りのやり方から変えようとしている。小さな変化だが今日の前にいる子どもの主体性を伸ばす方向で学校を変えていこうとする雰囲気生まれてきていることを感じる。『私の時間』という新たな時間に取り組むことが、子どもの新たな一面を発見したり、自分自身（教師）の寄り添い方を模索したり、授業や行事や学校はどうあればいいのか、これから大切にしたい学びはどんな学びなのか考える視点を与えてくれている。

(2) 標準時数の確保と柔軟な教育活動

研究開発校（特例校）は、40分×1015コマで生み出された40分×127コマを学校裁量として様々な活動に使えるが、特例校ではない本校は各教科等の標準時数は確保しなければならない。そこで本校では、学校裁量の時間を教科等に充てる時間と『私の時間』に充てる時間を含めた上で標準時数を確保できるように計算して登校日数を定めている。特筆すべきは、午後開催の教育会や市の行事、研修会等への出張による欠落時間が減ることにより、授業時数が確保しやすくなっていることである。4月から11月現在で、5校時が欠落した日は2日だけであるため、各学年の学習進度に大きな問題はない。午前中に5校時まで行う新教育課程では、市費の支援員が5校時から学校裁量の時間まで配慮児童への支援に回ることができるなど、教育支援の面でも良さを感じている。

1単位時間を40分とした新教育課程では、午後の清掃時間枠（20分）、学校裁量枠（20分）、そして6校時枠（40分）の組み合わせによって、ロングタイム、スーパーロングタイムでの学習活動を可能にしている。つまり、1単位時間を40分とすることで、実際には0.5単位（20分）の組み合わせで授業を構築しやすくなる。校外学習や体験学習、教科等の内容や子どもの追求意欲に対応できる柔軟な枠組みとなっている。

(3) 「学びって何だろう？」 ～『私の時間』で発揮される「その子らしさ」と教員の葛藤～

『私の時間』では様々な子どもたちの姿が見られる。試しに気になることをやってみたり、友だちの活動を真似してみたりして自分のやりたいことは何か探している子。自分のやりたいことが明確に見つけられずひとまず今できることをしている子。自分のやりたいことの難しさや面白さを感じて繰り返し取り組んでいく子や、難しさを感じて違った活動にすぐに変える子など非常に多様な姿が見られる。活動の理由やきっかけも様々で、好きなことや得意なことから活動を決めている子や、なりたい自分やあこがれの先輩に近づきたくて活動している子、テレビやネットで見て純粋にやってみたくて活動している子、誰も挑戦したことのないことにチャレンジしてみたい子など、一人ひとり違った背景がある。改めて子どもは一人ひとり違っていることを感じさせられる。

その時間の行動が全て子どもに委ねられると、『私の時間』は自己決定の連続となる。一つ一つの行動を「自分で決める」という過程には、その子の今までの生活経験や、好き嫌い、得意や苦手なこと、物事への取り組み方や、困難への立ち向かい方など「その子らしさ」が如実に現れてくることが見えてきた。子どもたちにとって、自分の活動を決めるということとは簡単なことではないように見えるが、一方でどの子もその過程を楽しんでいるようにも見える。



その子の姿が見えてくると、同時にその子にどう寄り添えば良いか悩みが増してくる。何もしないでただ見ているだけで良いのか、その子にどんな声をかけたら良いのか、子どもが自己決定した活動に対して寄り添う自分自身のあり方に多くの教員が悩み続けてきた。『私の時間』が、目標をもつ教科でないことや、この時間に明確な目指す姿を設定しなかったことで、ある一定の決まった評価基準をもとにその子を評価することができず、教員一人ひとりの教育観や子ども観から子どもを見つめるしかなかった。しかし、そのことが自分の教育観や学び観、子どもの見つめ方を自覚したり、問い直したりすることに繋がっていったように思える。

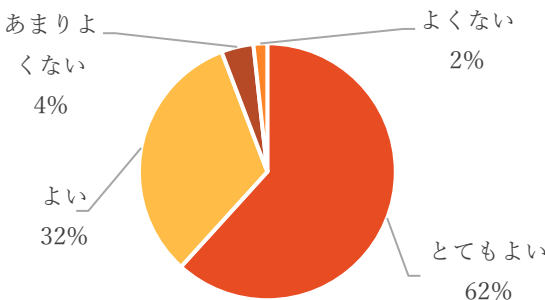
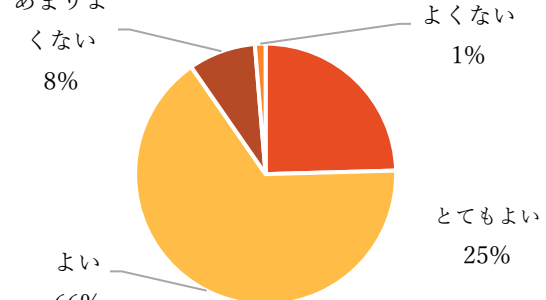
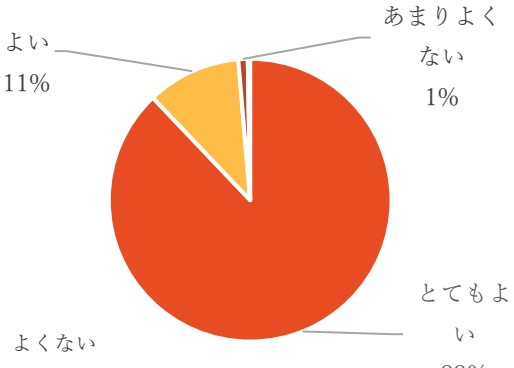
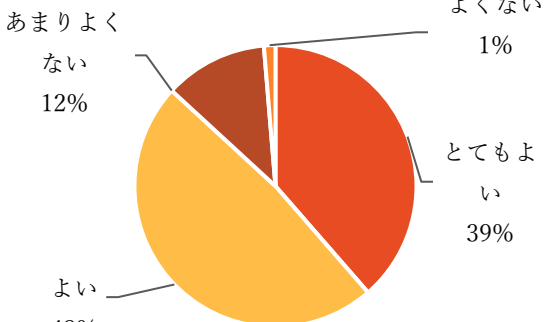
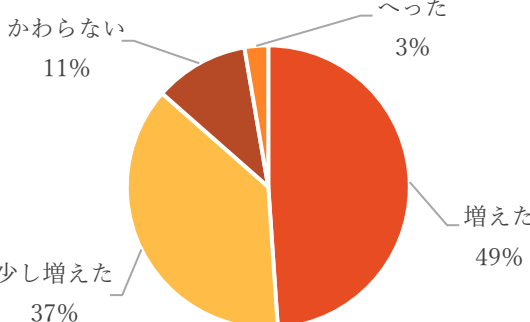
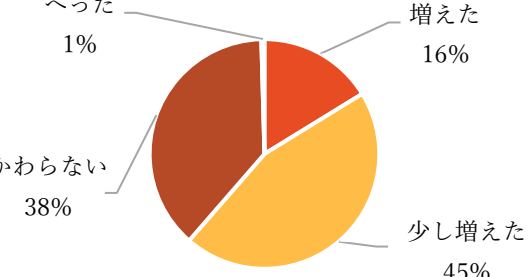
(4) 『私の時間』から「子どもが選ぶ授業づくり」へのチャレンジ

『私の時間』での子どもの姿から、「子どもは思った以上に自分で学ぶ存在である」ことや「子どもはみんな個性的で一人ひとり違う」ということを改めて共通理解した私たち。そこで、後期は『私の時間』で見られるような一人ひとりの子どもが活動を楽しむ姿を『私の時間』以外の授業でも生み出していきたいと考えた。『私の時間』で見られた自己選択によるその子らしい主体的な姿から、「子どもが選ぶ」「教師が子どもに委ねる」ということをテーマに授業づくりに取り組んでいる。それぞれの教員が今の自分にできる「子どもが選ぶ・教師が委ねる」授業にチャレンジし始めたばかりである。実践する教科もそれぞれの得意やチャレンジしたいことに合わせて選択し、目の前の子どもたちとのこれまでの日々の延長線上で授業づくりをしている。

今大会で公開した授業での子どもの姿のフィードバックをいただくことで、今後さらに学んでいきたいと考えている。

3 新教育課程についてのアセスメント（児童・保護者）

新しい教育課程を実施する上で、アセスメントを行うことは重要である。例年学校評価アンケートは年1回11月の実施であったが、新教育課程実施にあわせて7月と12月の2回行うことにした。40分授業・私の時間の授業参観を実施した上で行った7月の評価アンケート（一部）を以下に示す。

<児童のアンケート結果>	<保護者のアンケート結果>																								
<p>①40分授業・午前5時間について</p>  <table border="1"> <tr><th>評価</th><th>割合</th></tr> <tr><td>とてもよい</td><td>62%</td></tr> <tr><td>よい</td><td>32%</td></tr> <tr><td>少ない</td><td>4%</td></tr> <tr><td>よくない</td><td>2%</td></tr> <tr><td>あまりよい</td><td>0%</td></tr> </table>	評価	割合	とてもよい	62%	よい	32%	少ない	4%	よくない	2%	あまりよい	0%	<p>①40分授業・午前5時間について</p>  <table border="1"> <tr><th>評価</th><th>割合</th></tr> <tr><td>とてもよい</td><td>25%</td></tr> <tr><td>よい</td><td>66%</td></tr> <tr><td>少ない</td><td>8%</td></tr> <tr><td>よくない</td><td>1%</td></tr> <tr><td>あまりよい</td><td>0%</td></tr> </table>	評価	割合	とてもよい	25%	よい	66%	少ない	8%	よくない	1%	あまりよい	0%
評価	割合																								
とてもよい	62%																								
よい	32%																								
少ない	4%																								
よくない	2%																								
あまりよい	0%																								
評価	割合																								
とてもよい	25%																								
よい	66%																								
少ない	8%																								
よくない	1%																								
あまりよい	0%																								
<p>②『私の時間』について</p>  <table border="1"> <tr><th>評価</th><th>割合</th></tr> <tr><td>とてもよい</td><td>88%</td></tr> <tr><td>よい</td><td>11%</td></tr> <tr><td>あまりよくない</td><td>1%</td></tr> <tr><td>よくない</td><td>0%</td></tr> </table>	評価	割合	とてもよい	88%	よい	11%	あまりよくない	1%	よくない	0%	<p>②『私の時間』について</p>  <table border="1"> <tr><th>評価</th><th>割合</th></tr> <tr><td>とてもよい</td><td>39%</td></tr> <tr><td>よい</td><td>48%</td></tr> <tr><td>あまりよくない</td><td>12%</td></tr> <tr><td>よくない</td><td>1%</td></tr> </table>	評価	割合	とてもよい	39%	よい	48%	あまりよくない	12%	よくない	1%				
評価	割合																								
とてもよい	88%																								
よい	11%																								
あまりよくない	1%																								
よくない	0%																								
評価	割合																								
とてもよい	39%																								
よい	48%																								
あまりよくない	12%																								
よくない	1%																								
<p>③今年になって、いろいろなことにやる気がでたり、ちょっと工夫したりすることが、ふえましたか。</p>  <table border="1"> <tr><th>評価</th><th>割合</th></tr> <tr><td>増えた</td><td>49%</td></tr> <tr><td>少し増えた</td><td>37%</td></tr> <tr><td>かわらない</td><td>11%</td></tr> <tr><td>へった</td><td>3%</td></tr> </table>	評価	割合	増えた	49%	少し増えた	37%	かわらない	11%	へった	3%	<p>③お子様は、物事に取り組むときに、取り組み方を考えたり、必要なものを自分で用意したり、ご家庭で自分から相談したりお願いしたりするなど、自分なりに工夫して取り組むことが増えましたか。</p>  <table border="1"> <tr><th>評価</th><th>割合</th></tr> <tr><td>少し増えた</td><td>45%</td></tr> <tr><td>増えた</td><td>16%</td></tr> <tr><td>かわらない</td><td>38%</td></tr> <tr><td>へった</td><td>1%</td></tr> </table>	評価	割合	少し増えた	45%	増えた	16%	かわらない	38%	へった	1%				
評価	割合																								
増えた	49%																								
少し増えた	37%																								
かわらない	11%																								
へった	3%																								
評価	割合																								
少し増えた	45%																								
増えた	16%																								
かわらない	38%																								
へった	1%																								

新教育課程については、児童も保護者も肯定的な意見が多く、特に『私の時間』について「とてもよ

い」「よい」と感じている割合が非常に高い結果となり、保護者も関心の高さが伺える。「とてもよい」と答えた児童が88%、「よい」と答えた児童が11%となり、肯定的な意見が全体の99%にもなっていた。)子どもたちにとって、たとえその日の活動が自分にとって手応えのあるものではなかったとしても、「自分で決める」ということがその時間の充実感につながっていることが伺える。一方で保護者からは「低学年、中学年は自分で進める＝自由時間となっていないか」「高学年からでよいのではないか」「タブレットを使っている児童が多い」等、『私の時間』のあり方について正直な意見も寄せられている。これらの意見は、『私の時間』が始まった頃に教員から出てきた大人目線らしい意見である。③の子どもの変化についての設問では、子ども自身も保護者も成長や変化を感じていることがわかる。また、子どもがさらに成長していけるよう、保護者として学校と協力していきたいことは何かを問う設問では、「子どものよい姿を認めていくこと」が80.2%、「子どもが困ったり悩んだりなどするについて、相談にのったり、自分で乗り越えて解決できるように背中を押したりすること」が83.7%と高くなっており、「子どものよいところを伸ばす」ということが保護者と学校の共通の願いになっていることがわかる。これらを糧とし、自立した学び手を育成するために教育課程全体で「主体的に物事に取り組み、追求する姿」「自分で計画し、調整していく力」を育む活動に取り組んでいきたい。

4 おわりに ～新しい学校づくりのこれから～

「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」を推し進めていかなければいけないことは理解している。だが、個別最適化を図るために、日常の教育活動の中で私たちは「目の前にあるその子」について十分な理解ができているのだろうか。多忙な日々の中で、子どもの資質や能力を一律一律な集団生活の枠の中に収まっているのかどうかで判断したり、「〇〇はできる、△△は苦手」というような教科の評価枠だけの「できる・できない」の理解に留めてしまったりしてはいないだろうか。そして、それらの狭い枠から外れる子どもを同情的な目で見えていないだろうか。そういう状況で子どもや教員のウェル・ビーイングは見出せるのか。私たちの実践は至極単純で、学校の枠の中に「その子らしさ」を発揮できる時間を設けただけかもしれない。その子にとっての個別最適とは何かを見つめるために100%子どもに委ねてみたといってもよいかもしれない。その結果、その子らしさを語り合う教員が増え、その子の取組を理解して応援してくれる家族がいて、自分らしさを発揮できる学校をつくろうという学校全体の気風が生まれてきている。とても素敵なことだと思う。参観された地域の方からも、子どものやることに「No」を言わずに、子どもが何をやろうとするのか様子をじっと見つめる先生が印象的で、学校全体が変わってきているのを感じるという声も届いている。

県内外には、年に数回子どもにとってパーソナルな時間を設けて実践し成果をあげている学校がある。本校のように通年で毎週行う学校は少数と思われる。通年で行うからこそ、子どもの揺らぎや変化、成長の過程が見えてくる。新しい教育課程実施はまだ1年目である。今の1年生が6年間の経験を積んだとき、一体どんな追求をしているのだろうかと考えるとわくわくしてしまう。自分たちのやりたいことに合わせて、日課や時間を設定し始める子どもたちの姿も思い浮かぶ。今後も「子どもが選ぶ授業づくり」へのチャレンジを続け、自分の長所を理解した子どもたちが学級や学年の枠を超えて、自分らしく学べる教育活動を選択できるようにしていきたい。